

体験から探求へ ～子どもたちを支える地域サポーターの役割～

特定非営利活動法人子育てひろば夢ふうせん 副理事長
ロボサバ BASE 山元実行委員会 代表 佐藤 作智栄



1. ロボサバ BASE 山元のはじまり

私の所属する「子育てひろば夢ふうせん」は、山元町に児童館がなかった時に、親子が安心して集える居場所づくりの重要性を感じ、2013年1月に山元町家庭教育支援チームの仲間とスタートしました。震災後の新市街地にこどもセンターができたことから、2016年に「子育てひろば夢ふうせん」を法人化し、こどもセンター内の子育て支援センター事業を受託しています。

事業開始にあたり、地域の子育て施設に足を運ぶ機会も多く、また、私自身も子育て中だったことから、子どもの興味のあるところを巡っていました。

そのような中、PCN 仙台が仙台市で開催していたワークショップに参加し、荒木会長（通称：親方）や阿部代表（通称：裏ボス）との出会いがありました。はんだ付けをした基板をロボットに繋げてプログラミングをし、大会にもチャレンジしました。

皆さんの関わり方を見て、子ども達の持っている力の引き出し方の魅力が素晴らしく、ぜひこの活動を山元町でも開催してほしいと熱望しました。

関心のある子どもがいる保護者にも声がけ

し、寺子屋として「ロボサバ BASE 山元」が2015年にスタートしました。同時に、「子育てひろば夢ふうせん」のスタッフの中からも見守り活動の協力があり、運営サポートの心強い味方となっています。

都会から離れている山元町でも同じような経験ができることで、地域格差が少しでも少なくなり、子ども達の体験の機会が増え、疑問や興味を持ち、参加している子ども達のチャレンジしていく姿を見ることができるようになりました。また、その成長を間近で見守りサポートしている大人も「今回はどんなことをするのか？」と回数を重ねていくうちに益々ワクワクする気持ちが増えています。

この一歩がこれからの「ロボサバ BASE 山元」の大きなスタートとなっています。

2. 地域とのかかわり・体験の多様性

「ロボサバ BASE 山元」のスタートは、PCN 仙台の皆さんに山元町へお越しいただき、月2回、「寺子屋」として山元町防災拠点・山下地域交流センターを会場に活動したのが始まりです。

小中学生を対象に、クリエイティブな学びの体験のサポート活動を続けていき、町内でも少

しずつ認知されていきました。

また、活動PRも含め、ロボサバ本部で行っている競技大会を「地方大会」として開催してみようということで、2022年8月に第1回山元大会を開催し、その後、年2回ずつ開催するまでになり、2024年8月には第5回山元大会を開催することができました。



ロボサバBASE山元第1回大会
(PCN 仙台荒木代表と運営スタッフ)



ロボサバBASE山元第5回大会

運営方法については、親方たちにアドバイスをもらい、山元町教育委員会生涯学習課様にもご後援をいただいております。運営スタッフの

メンバーは、主に寺子屋に通っている子どもの保護者です。また、かつて寺子屋に通っていた子ども達が成長し、学生スタッフとして関わり運営しています。

協賛として地元の企業様からのご協力もあり、子ども達の成長を見守ってくれるサポーターが増えてきていることに深く感謝しています。

私達保護者も自分でできることを始めてみようということで、今までお願いしていた寺子屋運営に携わるようになりました。例えば、地域のお祭りでのワークショップの開催や、山元町の冬のイルミネーション「コダナリエ」に飾るアイロンビーズを使った作品作り、プログラミングでライトを光らせるイルミネーション作成です。

また、企業とのタイアップで、子ども達が自分達でプログラミングしたドローンアートにも沢山の子ども達が挑戦しました。初めての試みに、ドキドキしながら夜空を見上げ、作品が浮かび上がった時の歓声は忘れられません。

また、2024年度はこども食堂とのコラボイベントも開催し、お互いの活動を知っていただくきっかけとなりました。

山元町の特徴として、地元の皆さんの温かい見守りがあり、地域のコミュニティが活発なことで、アドバイスや協力をいただける機会が多く現在の活動につながっています。

また、最近では、地域おこし協力隊の方や、山元町に携わっている大学生ボランティアもイベントに参加してくれています。

ロボサバBASE山元実行委員会メンバーも各小中学校の学校運営協議会委員や役員に携わっていることによって、学校や地域との連携

がスムーズに進められることも大きな力となっています。



寺子屋活動

3. 放課後 ICT 活動

2023年度からは新事業として「放課後 ICT 活動」をスタートしました。

山元町内の小学校の放課後の空き教室を利用して、事前申込をした小学3年生から6年生までの子ども達が、プログラミングや工作体験を行っています。

始まりのきっかけは、寺子屋の会場がある常磐線の山下駅前が子どもには送迎が必要な場所で、親御さんが働いていると送迎ができないということでした。

そこで、より多くの子ども達にこの「ワクワク」を体験できる機会を増やしていきたいという思いから、送迎の必要がない小学校での開催なら、親御さん達も安心してお願いできるのではと思いました。

小学校へ教室利用をお願いするにあたり、現役小学生の子を持つ保護者メンバーが中心となって企画書を提出し、活動終了後の帰宅方法

や学童保育との連携等について、細かな打ち合わせを重ねた結果、先生方のご理解、ご協力が得られ活動が始まりました。

子どもによってプログラミング体験の経験の有無はありますが、カリキュラムを進めていくほかにも、子ども達自身がやってみたいことを自主的に考えながら、同じ教室内でそれぞれ取り組んでいます。

最初はドキドキしながら参加していた子ども達も、今ではわからないところをお互い教えあったり、タイピングゲームでタイムを競い合ったり、ロボットを動かしてみたりと教室内では元気な声が毎回響いています。

私たちの役割は、場の提供と見守りで、疑問点は一緒に考え寄り添い、地域のサポーターとして共に学びあい楽しい時間を共有しています。

町内には4つの小学校がありますが、現在2校で開催しており、今後は全部の小学校でも開催できるよう、活動を積み重ねている段階です。



放課後 ICT 活動

4. ワクワクの種を！これからも

私たち「ロボサバ BASE 山元」のサポートメンバーは、我が子達の大好きなモノづくりやプログラミング体験に共に参加していた親御さんたち、地域の子ども達の成長をずっと見守り続けてくれた先輩たちと活動しています。

「この楽しいことをみんなに知ってほしい！一緒に体験してほしい！」との思いから始まりました。

そして、何よりこのきっかけのご縁をくれたPCN 仙台の親方をはじめ、皆さんが山元町に来てくれたことが大きな力となっています。

自主事業はまだまだ手探り中ですが、「子ども達に沢山の経験を」という同じ思いのもと活動できているからこそ続いていると感じています。これを一つの経験として、これからも子ども達の成長の見守り隊として少しでもお手伝いのできたらと思っています。

現在、寺子屋に参加していた子ども達が大きくなり、サポート側として参加してくれていること、また、新しい世代が取り組み始めていることはとても嬉しく、次につなげていくことも

私達の大きな役割だと感じています。

2023年度は、「とうほくプロコン」にエントリーした寺子屋メンバー3人組が受賞し、山元町に表敬訪問する機会をいただき、緊張しながら大人を前に作品発表を行いました。子ども達にとっても貴重な経験で、これからの大きな力になったことと思います。

地域全体で学びや経験の機会を支援していくことによって、子ども達の興味・関心の引き出しが少しでも増え、成功体験の積み重ねからこれからの生活のヒントが生まれるきっかけになれば嬉しく思います。

サポートメンバーは「大人が本気で楽しむ」というエネルギーであふれている仲間で、子ども達の好奇心を大きく引き出してくれる力があります。

「体験から探求へ」沢山の出会い、そして一緒に活動できる仲間へ感謝し、新しいことに挑戦し続け、子ども達と一緒に成長を楽しんでいきます！



表敬訪問の様子



ロボサバ BASE 山元
Instagram 公式アカウント